

風しん第5期の予防接種を受けられる方へ

<風しんとは>

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。

軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱などが主症状です。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などがあり、大人がかかると重症になります。

女性が妊娠初期に風しんにかかると、心疾患、白内障、聴力障害などの障害を持った「先天性風しん症候群」の子どもが生まれる可能性があります。

<ワクチンの効果と副反応>

ワクチンの効果として、接種した方の約95%以上が免疫を獲得します。ただし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。

副反応の症状として、発熱・発疹、注射部位の発赤、リンパ節膨張、かゆみ等の局所反応が見られます。また、重大な副反応としてまれにアナフィラキシー(アレルギー反応)、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんを起こすことがあります。

<予防接種を受けることができない人>

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 風しんの予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシー(アレルギー反応)を起こしたことがある人
- ④ その他、医師が不相当と判断した人

<予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない人>

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな人
- ② 予防接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫不全と診断されたことがある人及び近親者に先天性免疫不全の人がいる人
- ⑤ 麻しん風しん混合ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人

<予防接種を受けるときの注意>

- ① 麻しん風しん混合ワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ② 予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。
- ③ 体調のよい時に受けましょう。

<予防接種を受けた後の注意>

- ① 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこするのはやめましょう。
- ② 接種日およびその翌日は、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ③ 注射した部位は清潔に保ってください。
- ④ 接種後5日目から14日目ごろに、微熱や発熱などの軽い症状がでることがあります。
- ⑤ 高い熱やけいれんなどの症状が出たときには、すぐに医師の診察を受けてください。

<健康被害救済制度について>

予防接種法に基づく定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になった場合、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。詳しくは厚生労働省のホームページをご覧ください。[\(https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/kenkouhigai_kyusai/\)](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/kenkouhigai_kyusai/)

【問合せ先】

十日町市 市民福祉部 健康づくり推進課 母子保健係
電話 025-757-9759 (係直通)